

令和7年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和7年12月 (平成26年から毎年12月に実施)

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校34校、中学校32校、高等学校17校、計83校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	2,979人 (抽出率6.4%)	}	合計 8,286人 (抽出率6.7%)
中学校	3,544人 (抽出率7.4%)		
高等学校	1,763人 (抽出率5.8%)		

※割合算出時に小数点以下の数字がある場合は、小数点第二位を四捨五入する。

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホとは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE X（旧Twitter）、Instagram、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。
- ・ 全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果【こども家庭庁 R8.3】による。

令和8年5月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概要 〉 ※以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

① スマホの所持率

- ・「自分専用」及び「契約していない自分専用」のスマホを持っている割合は、小60.9%、中89.8%、高98.9%であり、小・中で増加している。
- ・保護者が使用しなくなったスマホを子どもに与えているケースが増えており、小では「契約していない自分専用のスマホを持っている」割合が高い。

② ネットやコミュニケーションサービスの利用状況

- ・全校種で「連絡(メール・LINE・通話など)」、「音楽や動画等の視聴」の割合が高い。また、小・中では「ゲーム」、高では「SNSを見る、投稿」の割合が高い。

③ 情報端末の学習への活用

- ・情報端末を学習に利用している割合は、小79.6%、中81.5%、高81.4%であり、全校種で全国調査よりも高い。

④ 平日1日当たり、どのくらいスマホ等を利用しているか

- ・スマホ等の利用時間の合計が、「平日1日に3時間以上」と答えた割合は、小37.5%、中53.2%、高58.5%であり、全校種で全国調査よりも低い。

① 自分のスマホを持っているか

- ◆ 「自分専用のスマホ・携帯を持っている」「契約していない自分専用スマホを持っている(家族などから譲られたもの)」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象> ※ ()は昨年度比

	R5	R6	R7	R7内訳		R7 対象者数：人
				自分専用 スマホ所持	契約なし 自分専用 スマホ所持	
小	58.1	59.5	60.9(+1.4)	41.8	19.1	2,979
中	85.3	87.4	89.8(+2.4)	81.3	8.5	3,544
高	99.2	99.3	98.9(-0.4)	97.0	1.9	1,763

※ 学年別のスマホの所持率(R7)

- ・小4 57.7% 小5 56.2% 小6 68.1%
- ・中1 86.2% 中2 89.3% 中3 93.0%
- ・高1 99.2% 高2 98.7% 高3 98.9%

② ネットやコミュニケーションサービスの利用状況

- ◆ サービスで何をするかの割合(%) 【8項目から複数回答】
<ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	①	②	③
小	音楽や動画等の視聴 64.8%	連絡(メール・LINE・通話など) 64.0%	ゲーム 58.5%
中	連絡(メール・LINE・通話など) 90.9%	音楽や動画等の視聴 87.7%	ゲーム 69.5%
高	連絡(メール・LINE・通話など) 97.6%	音楽や動画等の視聴 90.5%	SNSを見る、投稿 85.9%

※ 具体的にどのようなインターネット、コミュニケーションサービスを利用しているか

- ・小 Youtube(73.3%) 検索サイトGoogle,Yahoo!など(61.9%)
LINE(57.1%)
- ・中 LINE(89.3%) Youtube(84.3%)
検索サイトGoogle,Yahoo!など(77.3%)
- ・高 LINE(97.6%) Youtube(87.4%) Instagram(79.5%)

③ 情報端末の学習への活用

◆ スマホやパソコン、タブレットの学習への利用の有無の割合(%)<スマホ等を利用すると回答した児童が対象>

※ ()は昨年度比

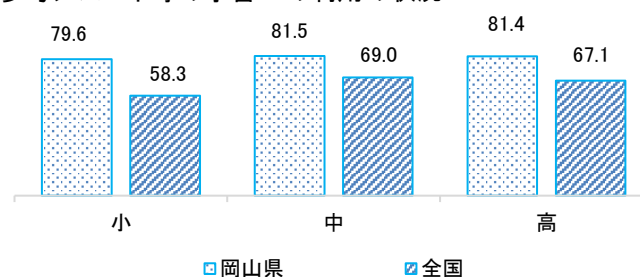
R7					
学習に利用する					学習に利用しない
小	79.6 (-3.2)				18.8
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	48.4	21.0	6.2	4.0	
中	81.5 (-1.4)				17.9
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	52.4	21.6	5.4	2.1	
高	81.4 (+0.8)				18.2
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	52.1	22.2	5.3	1.8	

◆ どのようにスマホやパソコン、タブレットを学習に利用しているかの割合(%)【8項目から複数回答】

<スマホなどを学習活動に活用すると回答した児童生徒が対象>

	①	②	③
小	勉強でわからないことを調べる 66.7%	勉強ソフトやアプリを使う 25.4%	スポーツや楽器の実技の動画をみる 16.9%
中	勉強でわからないことを調べる 78.9%	勉強ソフトやアプリを使う 27.5%	勉強に関する動画をみる 26.2%
高	勉強でわからないことを調べる 85.2%	勉強に関する動画をみる 29.7%	勉強ソフトやアプリを使う 26.2%

<参考> スマホ等の学習への利用の状況



④ 平日1日当たり、どのくらいスマホ等を利用しているか

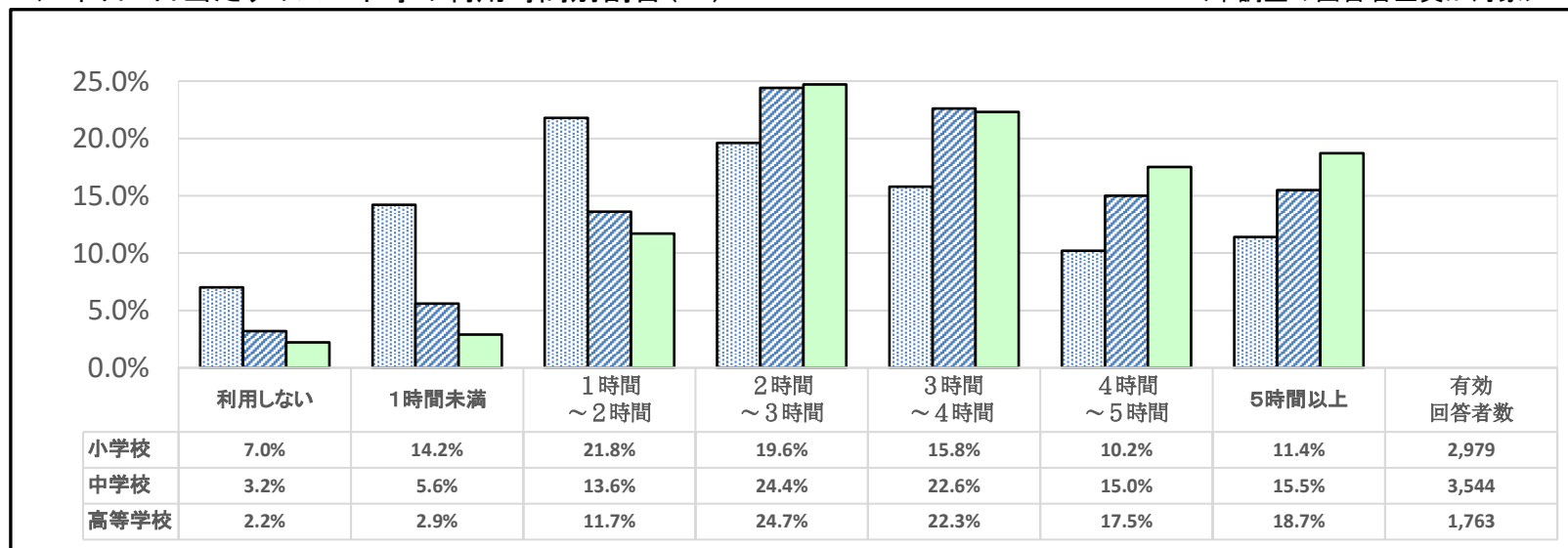
◆ スマホ等の利用時間の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)<本調査の回答者全員が対象>

	R5	R6	R7	R7 対象者 数：人	<参考> 全国	
					R6	R7
小	25.8	26.9	37.5(+10.6)	2,979	55.2	61.7(+6.5)
中	38.2	40.5	53.2(+12.7)	3,544	74.4	78.1(+3.7)
高	43.3	45.8	58.5(+12.7)	1,763	81.9	86.0(+4.1)

※ ()は昨年度比

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

・「嫌な思いをしたことがある」と答えた割合は小11.8%、中16.5%、高13.4%となっており、「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」が全校種で最多となっている。また、小では、「ゲームの中で友達や知り合いとのトラブルになった」も高い割合となっている。

② 「悩みや不安を感じている」割合

・「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は小32.2%、中47.2%、高49.0%となっており、「睡眠不足や視力の低下など健康の問題に関すること」が全校種で最多となっている。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答>

	①	②	③	対象人数： 「ある」を 選択した人数	回答者数
小	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された 43.4%	ゲームの中で友達や知り合いとトラブルになった 34.8%	他人からメールやSNS等をしつこく送られた 14.3%	279 (回答者数の11.8%)	2,367
中	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された 60.0%	コミュニケーションサービスや掲示板などで悪口や嫌なことを書かれた 16.9%	他人からメールやSNS等をしつこく送られた 13.8%	543 (回答者数の16.5%)	3,290
高	書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された 62.6%	コミュニケーションサービスや掲示板などで悪口や嫌なことを書かれた 13.2%	他人からメールやSNS等をしつこく送られた 11.5%	227 (回答者数の13.4%)	1,689

<質問項目>

- 書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された
- コミュニケーションサービスや掲示板などで悪口や嫌なことを書かれた
- SNSなどで知り合った面識のない人に、自分を撮影した画像(写真・動画)を送られた
- 自分の名前や電話番号等の個人情報や写真などを勝手に流された
- グループからはざされた
- 自分になりすました他人に、書き込みなどをされた
- 他人にアカウントを乗っ取られた
- 有害な悪いサイトにつながった
- 他人からメールやSNSなどをしつこく送られた
- 心当たりのない利用料金の請求を受けた
- ゲームの中で友達や知り合いとトラブルになった
- 大人が入らないといけないような事件に巻き込まれた
- その他

② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

- ◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>

	①	②	③	対象人数： 「ある」を 選択した人数	回答者数
小	睡眠不足や視力の低下など 健康の問題に関すること 41.4%	自分が書いた書き込みにつ いて、後から「あれでよ かったか」などと悩む 25.0%	自分の個人情報やプライ ベートなことをどこまで書 いてよいか悩む 22.7%	763 (回答者数の32.2%)	2,367
中	睡眠不足や視力の低下など 健康の問題に関すること 47.1%	自分が書いた書き込みにつ いて、後から「あれでよ かったか」などと悩む 31.6%	自分の個人情報やプライ ベートなことをどこまで書 いてよいか悩む 25.6%	1,553 (回答者数の47.2%)	3,290
高	睡眠不足や視力の低下など 健康の問題に関すること 51.4%	自分の個人情報やプライ ベートなことをどこまで書 いてよいか悩む 26.0%	自分が書いた書き込みにつ いて、後から「あれでよ かったか」などと悩む 25.2%	827 (回答者数の49.0%)	1,689

<質問項目>

- 1.利用しているコミュニケーションサービスの中での人間関係
- 2.友だちのメッセージをチェックすること
- 3.自分の個人情報や自分に関することをどこまで書いてよいか悩む
- 4.他人の個人情報や他人に関することをどこまで書いてよいか悩む
- 5.悪意のあるコメントや荒らしがくること
- 6.見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
- 7.知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと
- 8.メッセージを読んだことがわかる仕組み(既読チェックなど)があること
- 9.メッセージがきたらすぐに返信しなければならないこと
- 10.友だちとのやりとりをなかなか終わられないこと
- 11.自分が書いた書き込みについて、後から「あれでよかったか」などと悩む
- 12.自分の書いたメッセージに反応がないこと
- 13.ゲームやアプリでお金を使いすぎる
- 14.睡眠不足や視力の低下など健康の問題に関すること
- 15.その他

(3) スマホの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概要 〉

① 家庭のルールの有無

- ・「家庭のルールがある」と答えた割合は、小52.7%、中50.1%、高25.3%であり、昨年度よりも小では減少、中・高では増加している。
- ・「ペアレンタルコントロールを利用している」と答えた割合は、小46.6%、中45.2%、高18.8%であり、昨年度よりも小・中で増加している。

② 家庭のルールの内容

- ・全校種で、「使う時間について決めている」、「困ったときは保護者に相談する」、「知らない人からのメール等に返信しない」と答えた割合が高い。

③ フィルタリングの設定率

- ・「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小49.6%、中50.0%、高40.6%であり、小・中で5割前後を推移している。

④ 危険性等の学習の状況

- ・スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、昨年度同様に全校種で高い水準を維持しており、全国調査と比較するといずれも高い。
- ・全校種で、「学校」で学んだり、教えてもらったりしたと答えた割合が高く、情報モラル教育の成果がみられる。

① スマホの利用に関して家庭のルール等が設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

※ ()は昨年度比

	R5	R6	R7			R7 対象者数：人
	ある	ある	家庭の ルールが ある	自分の 決め事は ある	ない	
小	55.9	57.8	52.7(-5.1)	13.3	34.0	2,979
中	46.0	49.4	50.1(+0.7)	15.0	34.8	3,544
高	20.6	22.6	25.3(+2.7)	18.8	55.9	1,763

◆ ペアレンタルコントロールの利用の有無に関する回答の割合(%)

<自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答>

※ ()は昨年度比

	R5	R6	R7			R7 対象者数：人
	はい	はい	はい	いいえ	不明	
小	39.2	45.3	46.6(+1.3)	28.8	24.6	1,228
中	34.4	40.0	45.2(+5.2)	41.2	13.6	2,867
高	15.7	19.1	18.8(-0.3)	69.6	11.5	1,698

② どのようなルールを決めているか【13項目から複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%)

<スマホの利用に関して家庭や自分のルールが設定されている児童生徒が回答>

	①	②	③
小	使う時間について決めている 71.1%	困った時は、保護者に相談する 44.2%	知らない人からのメール等に返信しない 41.5%
中	使う時間について決めている 63.8%	困った時は、保護者に相談する 44.4%	知らない人からのメール等に返信しない 43.7%
高	困った時は、保護者に相談する 45.2%	知らない人からのメール等に返信しない 42.0%	使う時間について決めている 40.8%

③ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)

◆ フィルタリングの設定の有無に関する回答の割合(%)

<自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答> ※()は昨年度比

	R5	R6	R7			R7 対象者数：人
	設定している	設定している	設定している	設定していない	わからない	
小	49.7	51.0	49.6(-1.4)	25.3	29.6	1,233
中	47.3	51.7	50.0(-1.7)	29.6	29.6	2,873
高	42.6	40.1	40.6(+0.5)	35.0	24.0	1,706

④ スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりしたことが「ある」と答えた割合(%)

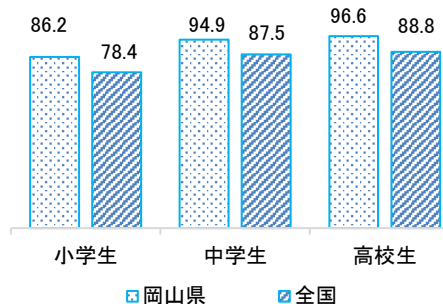
◆ スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

※()は昨年度比

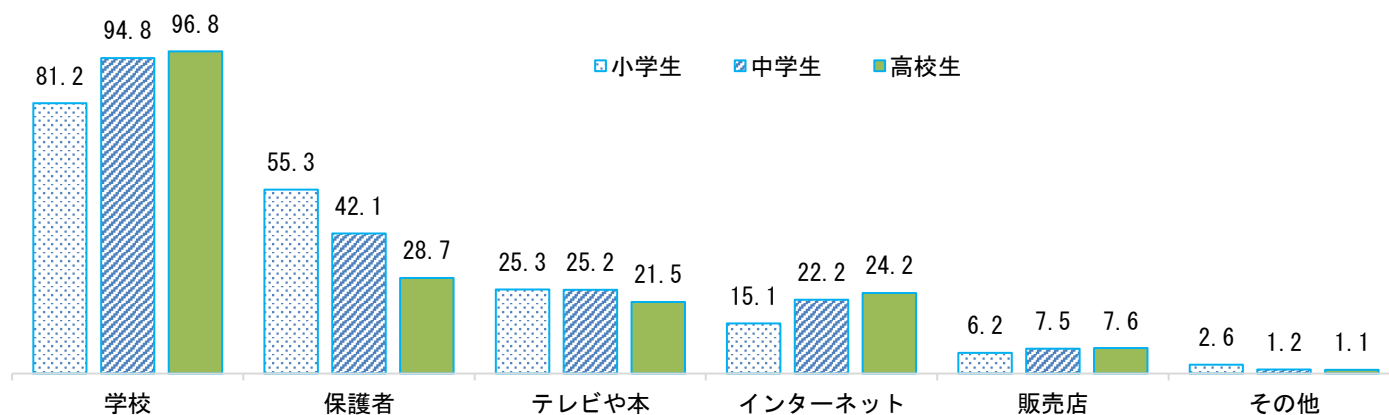
	R5	R6	R7			R7 対象者数：人
	ある	ある	ある	ない	不明	
小	87.7	87.2	86.2(-1.0)	7.6	6.2	2,979
中	95.4	96.0	94.9(-1.1)	2.5	2.6	3,544
高	96.8	96.0	96.6(+0.6)	1.6	1.8	1,763

<参考> スマホ等の危険性の学習の状況



◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【6項目から複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>



※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

【参考】 ネット依存傾向について <令和7年度岡山県学校保健概要調査（R7.12）速報値から>

○ネット依存 <アメリカ心理学者 キンバリー・ヤング（1965-2019）>

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピューターや携帯が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」

【ネット依存傾向チェックシートの概要】 -保健体育課-

◆小学生:簡易版8項目 ※○の数で判定

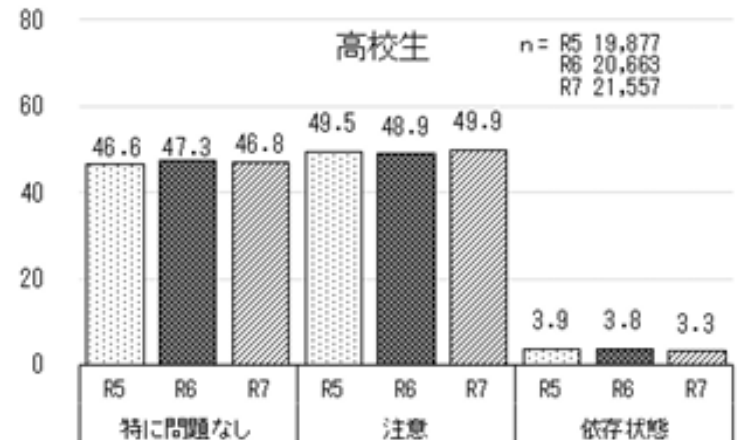
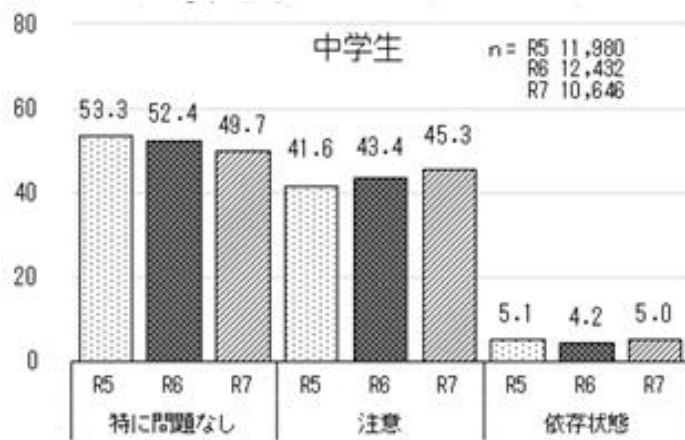
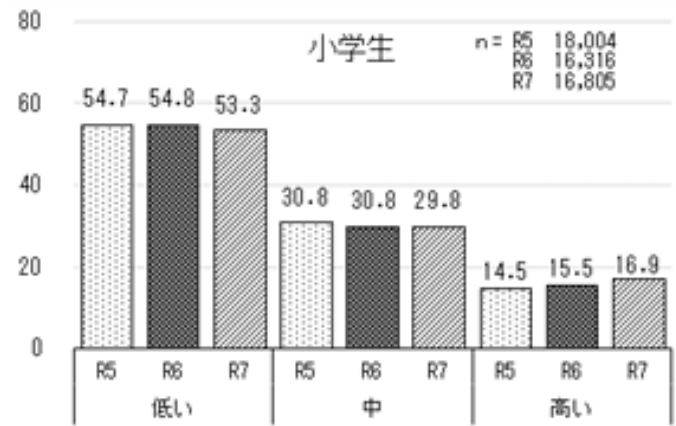
低い:0~2個 中:3~4個 高い:5~8個

◆中・高校生:詳細版20項目 ※各項目5点の点数化で判定

総得点 ①特に問題なし:20~39点

②注意:40~69点

③依存状態:70~100点



◆簡易版8項目(小学生)

- ① ネットに夢中になっていると感じることがある。
- ② 満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。
- ③ ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびある。
- ④ ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。
- ⑥ ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがある。
- ⑦ ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがある。
- ⑧ 自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。

◆詳細版20項目(中・高校生)

- ① 気がつくと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- ② 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- ③ 家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- ④ ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
- ⑤ まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- ⑥ ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- ⑦ ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある。
- ⑧ 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、SNSやメールなどをチェックすることがある。
- ⑨ 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- ⑩ 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- ⑪ 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- ⑫ ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- ⑬ ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- ⑭ 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- ⑮ ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- ⑯ ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- ⑰ ネット等をやる時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- ⑱ ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- ⑲ 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- ⑳ ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

(4) 今後の取組

(政令指定都市である岡山市を除く)

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動による適切な利用や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

① 児童生徒の主体的な活動の促進

- ・ 「OKAYAMAゆめスマサミット」等により、情報端末での学習や、日常生活におけるアプリ等の有効活用に関する各校での取組の推進を図るとともに、調査結果をもとにした適切な利用に関する意見交換を行い、スマホやネットの適切な利用を促進する。

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・ 各校の生徒指導担当者等を対象とした県教委主催の研修会において、スマホ等の利用の実態を周知し、各校において教科指導の場面だけでなく、外部講師の出前授業を行うなど、情報モラル教育の推進と充実を図る。また、スマホの長時間利用による生活リズムの乱れや、健康面の影響についても啓発を進める。
- ・ 情報教育担当教員等を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施する。
- ・ 県警と連携した「非行防止教室」の実施や、県独自に作成したSNS等による特殊詐欺に関する啓発チラシの積極的な活用に加え、SNS上のいじめ等の実例を取り上げた授業を行うなど、児童生徒が情報を正しく判断し、行動する力の育成を目指す。
- ・ 校内研修資料を作成し、各校に提供する。
- ・ SNSへの動画投稿問題等へ対応するため、「情報モラル教育ポータルサイト(文部科学省)」等、情報モラルに係るコンテンツを紹介し、活用を促す。

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・ 児童生徒や保護者・地域向けに作成した啓発チラシを授業や懇談等で周知することで、ネットの活用について学んだり、家庭のルールを親子で一緒に考えたりするきっかけとする。
- ・ 家庭学習の充実を図るために、保護者に提示している家庭用資料にタブレット端末の活用についての留意点を記載し、家庭での端末利用に関するルールづくりについて啓発を進める。
- ・ 「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンの中で、学校と家庭の連携による、スマホ・ネットの適切な利用に関する取組を推進する。また、好事例を活動資料で紹介する。
- ・ ルールづくりに関する参加型のワークショップ(フィルタリング・アプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等)を実施する。

④ 情報端末の学習への活用を推進

- ・ 県総合教育センターにおいて実施している各種研修講座や動画資料等を通して、教職員の情報モラル及び情報リテラシーに関する理解を深めるとともに、情報端末の効果的な活用に関する指導力の向上を図ることで、情報端末の学習への活用を推進する。

スマホ・ネット問題総合対策の推進

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等

子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル
- * 闇バイトに関連した非行や犯罪被害

学校

家庭・地域等

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

- 『OKAYAMAゆめスマサミット』の開催
 - ・ 中学校、高等学校等における、スマホ・ネットに関する取組の推進
 - ・ スマホ・ネットの適切な利用に関する意見交換

ネット依存への対策

継続・成果普及

【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
 - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
 - ・ 教職員への研修の充実

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

継続

【教育委員会】

- 悩みや不安を抱えた時の匿名相談アプリ活用事業
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめや悩み等を相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

実態把握に基づく対応の推進

継続

【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
 - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

家庭・地域等へ啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- 保護者研修の充実
 - ・ PTA等指導者研修会などで子どもをめぐるスマホ・ネット問題についての学習機会を確保し、各PTAでの取組を促進
 - ・ 啓発資料等を活用し、家庭のルール作りやペアレンタルコントロールの重要性、設定方法を周知
 - ・ 入学説明会や就学時健診等で「親育ち応援学習プログラム」などの参加型ワークショップを実施し、スマホ・ネットの適切な利用や家庭でのルールづくりを促進
 - ・ スマホ・ネット問題に関わるPTA活動の好事例を収集し、活動資料で紹介
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

関係機関等と連携した対応

継続

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進【子ども家庭課】
- 『非行防止教室』
 - ・ SNS等に起因する犯罪被害や非行、いじめ等の実例を交えながら適正利用やフィルタリングの重要性、携帯電話業者と合同した授業を推進【県警本部少年課】
- ネットパトロール
 - ・ インターネット上のいじめや犯罪被害等から児童生徒を守るため、早期発見・早期対応の観点から、学校公式サイト等の検索・監視を行う。【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築